

「臨床実習における指導上の課題と対策」

～患者・生徒へのアンケート調査を基にした指導の実践から～

宮城県立視覚支援学校 教諭 高橋秀信

1 はじめに

全国的に盲学校では児童生徒数の減少が続いており、生徒の実態も多様化している。本校においても、今年度の理療科生徒数は8名と近年減少傾向にある。

今年度、臨床実習を行っている生徒は専攻科理療科3年生：1名、専攻科保健理療科3年生：1名、専攻科理療科2年生：1名、専攻科保健理療科2年生：1名の4名である。生徒数の減少により、新規患者の確保が難しくなっており、常連患者の割合が増加している。かつて1学年に3名程度の生徒が在籍していた頃は、実技授業の中で生徒同士の学び合いや教員による細やかな技術指導が可能であり、年代・性別・体格の違いを活かした施術経験を積むことができていた。同時に臨床室では、患者アンケートと生徒による自己評価アンケートを実施し、客観的な評価を取り入れた指導の実践を行ってきた。

今回の実践研究では、過去のアンケート調査を再活用し、現在の生徒と患者に対して改めてアンケートを実施することで、生徒個人のコミュニケーション能力や実技力の比較検討を試みた。また、2016年度に調査を行った生徒たちは、現在ヘルスキーパーや理学療法士（PT）などとして就職し、自立した社会生活を送っている。彼らの評価を、施術者としての一つのゴールとして設定できるのではないかと考えた。

2 実践方法

（1）実践計画

4月 患者アンケート調査票と生徒の自己評価アンケート調査票の作成。

5月～7月 アンケート調査と患者からの感想等を生徒へフィードバック。

8月 アンケート集計の分析。自尊感情アンケート調査。

（2）本校における臨床室の現状

2022年までは、専理2・3年生、専保3年生、本保3年生が臨床実習を実施していた。2023年からは、そこに専保2年生が加わった。

専理3年生は月・火・木・金の午前中4回

専理2年生は、木の午後1回

専保3年生は、水の午前と木の午後2回

専保2年生は、水の午前1回である。

本来は、1回の実習の中で患者2名を治療することになっているが、現状は、生徒の実技力の習熟度の違いにより、1名しか予約を取っていないこともある。

(3) 生徒の実態

生徒 A：専理3年 50代 女性 中途弱視 入学以前は看護師

眼疾：網膜色素変性症

視力：（右）0.1 （左）0.07

視野：求心性視野狭窄（両）

矯正：遮光機能付き矯正レンズを使用。

使用文字：墨字（16ポイント ゴシック体）※反転機能使用時

補助ツール：拡大読書機（白黒反転）・タブレット・遮光眼鏡・置き型ルーペ

その他：羞明が強く、遮光カーテンや暗幕を使用、歩行は盲導犬を使用。

将来は、あはき免許・看護師免許を生かした仕事がしたい。

臨床では、一生懸命取り組んでいるが、触察や鍼施術での手際が悪く、部位の確認に時間がかかる。

生徒 B：専保3年 20代 女性 弱視

眼疾：視神経萎縮

視力：（右）0.05 （左）0.06

視野：求心性視野狭窄

使用文字：墨字 16～18ポイント 明朝体

補助ツール：タブレット 白黒反転

臨床では、明るく患者さんと会話ができる。

生徒 C 専理2年 60代 女性 中途弱視・難聴 入学前は薬剤師

眼疾：増殖性硝子体網膜症 視神経萎縮 白内障術後 網膜剥離術後

視力：（左）0.05 （右）手動弁

視野：中心暗点、視野欠損

使用文字：墨字 16～22ポイント ゴシック体、行間広め、片面印刷）

補助ツール：拡大読書器、タブレット、遮光眼鏡、カバーグラス、ルーペ

その他の障害：感音性難聴、右耳に補聴器、左耳に人工内耳を使用。

遠くからの声はロジャー使用。

情報伝達に時間がかかり、細かいニュアンスは伝わりにくい。

臨床では、必ず教員が付き添い、患者とのコミュニケーションの円滑化を図っている。

時間内に施術を終われるように手技を減らしている。

生徒 D 専保2年 20代 女性 弱視

眼疾：鎌状網膜剥離（両）

視力：（右）0.15 （左）0.1

視野：（右）5°以内 （左）10°以内

使用文字：墨字 22ポイント・ゴシック体

補助ツール：タブレット（白黒反転）、所見台

臨床では、丁寧な施術でリスクもないが、患者とのコミュニケーションに課題がある。

3 結果と考察

(1) 患者評価結果と生徒の自己評価結果の考察

以下が生徒4名の患者評価と生徒の自己評価と考察をまとめたものである。

(調査票は資料1、資料2参照)

生徒4名に対して、33名の患者さんから回答を得た。

生徒 A.

12名の患者から回答を得た。

全て4点・・・・・・・・・・9名

挨拶・誘導／主訴への対応／部位への施術／力加減 3点・・・1名

部位への施術 3点・・・1名

挨拶・誘導／主訴への対応／部位への施術／症状軽減 3点・・・1名

(患者と生徒の比較)

同じ項目で生徒の自己評価調査を見ると全ての項目で患者より1点以上低い点数であった。

患者は、およそできているという感想であるが、生徒は、それほど自身を持って施術に当たっていないことが考えられる。

(生徒の感想)

- ・課題：自分で触診、問診し、その人に合った施術を考え、判断し、時間内で行うことが難しい。技術はもちろんです、全体を考えながら計画的にその人に合った施術が十分に行えるよう学んでいきたいです。
- ・心配なこと：周囲が見えにくい分、あわてると物にぶつかったり、失敗したり、その日によって見え方も様々でその場に目が慣れるまで時間がかかったりする事もあります。何か間違えていたり、ご迷惑をかけていればいつでも教えて頂けると助かります。
- ・感想：主訴や症状の違う患者さんを施術して、喜んで帰っていただけたときに嬉しいです。患者さんに実際に施術をするのは不安もありますが、症状が良くなり喜んで頂けると嬉しいです。今後もしっかり学んでいけたら良いです。また、いろいろと配慮して頂きありがとうございます。実際に患者さんに施術するのは緊張するが、喜んでもらえると嬉しい。患者さんにとって良い施術をしたいです。

(患者の感想)

- ・もうちょっと長く腰をしてもらいたかった。でも、上手でした。
- ・大変対応も良く親切な声掛けが良かったです。
- ・もっとリラックスしてやっても大丈夫です。
- ・毎回話を聞いて頂けて良くして頂けております。次回が待ちどおしいです。
- ・とても丁寧で良かったです。
- ・いつもこちらの要望に適切に答えていただき、ありがとうございます。
- ・今のままで充分です。国家試験勉強頑張ってください。

生徒 B

16名の患者から回答を得た。

(6名は5月末から6月上旬、10名は6月中旬から7月中旬)

5月末から6月上旬：6名

全て4点・・・3名

全て3点・・・1名

挨拶・誘導／部位への施術／力加減／症状軽減3点・・・1名

挨拶・誘導／主訴への対応／力加減／症状軽減3点・・・1名

6月中旬から7月中旬：10名

全て4点・・・5名

全て3点・・・2名

力加減：3点／症状軽減：2点・・・1名

挨拶・誘導／主訴への対応／力加減：3点／症状軽減：2点・・・1名

症状軽減3点・・・1名

（患者と生徒の比較）

患者の評価と生徒の評価の差が1点以内であった。

（生徒の感想）

- ・課題：敬語、力度の確認、終わる時間はよかったけど、少し時間のかけ方が上手く配分できなかったので今後気を付ける。体位変換の補助が課題。
- ・心配なこと：特になし。
- ・感想：患者さんにお礼を言われるのが嬉しいです。主訴に対する施術時間が短くならないようにしたいです。

（患者の感想）

- ・とても良かった。
- ・しっかり次に何をやると言ってくれるので安心でした。
- ・お話をすると手が止まってしまっていた。始まりの部位から終わりの部位までしっかり揉んでほしい。
- ・純粋さをそのままに持ち続けて下さい。
- ・施術だけでなく色々話しかけて頂き親近感を覚えます。

生徒C

1名の患者から回答を得た。

全ての項目が4点・・・1名

（患者と生徒の比較）

生徒は全て3点と患者の評価より低く回答していた。

（生徒の感想）

- ・課題：患者さんとの会話中に手を止める時がある。
手ぬぐいの扱い方が下手である。筋肉の復習（症状と筋肉の関係、どの筋肉が関係しているか確認動作）。症状を経穴的にも捉えられるようにしたい。事前のカルテを見て先入感が入りやすい。診断できないことをわきまえる。問診の時間短縮（施術しながら問診する）。揉捏回数3回がきっちり出来るようにする（時間短縮のため）。患者さんの主訴が肩こりの場合の、下腿のどこをカットするか。

圧をもっと強く出せるようにする。まだまだ手で骨や筋肉をつかんでいないので、患者が変わると迷っている。

- ・心配なこと：会話が多い患者さんとのコミュニケーション（聴くことに気を使い、手がゆるむ）。半ズボン着用の場合、手ぬぐいを2本使うかどうか（手ぬぐいの扱いに時間がかかる）。左親指を痛めていること（関節炎かどうか）。
- ・感想：「問診は診断ではないというものの、カルテでの疑問点を問診で一つ一つ回答が得られ、痛みの原因や治療法（薬や食事療法や姿勢なども含む）を考え、答えを出すのはとても楽しい。ワクワクします。先生方は、静かに対応してくれるので、私も落ち着いて施術に集中できる。多くは語らないので初日緊張せず、むしろいつも通り楽しくできました。的確なポイントを話してくれるので、聴くことに神経を使わず楽です。経穴を筋肉でとらえるのはとても勉強になります。

（患者からの感想）

- ・がんばってください。

生徒 D

6月から7月にかけて4名の患者から回答を得た。

全て4点・・・3名

挨拶・誘導／症状軽減3点・・・1名

（患者と生徒の比較）

挨拶・誘導と症状の軽減で生徒の方が評価が高かった。

（生徒の感想）

- ・課題：自分から話をかけること。
- ・心配なこと：特になし。
- ・感想：6月から始めて、まだまだ分からない部分がありますが、着々と上手くなってきていると感じています。

（患者からの感想）

- ・施術の丁寧さが伝わってきました。
- ・力加減もちょうど良く、施術後は体がとても楽になりました。又宜しくお願いします。

（2）自尊感情アンケートについて

4名の生徒の中で、自己評価がかなり低い生徒や逆に患者より高い評価になっている生徒がいたことから、自己肯定感について調査することにした。

調査は、昨年本校の服部教諭が行ったものを拝借した。8月末に行ったため、臨床実習とどこまでリンクしているかは不明であるが、以下のような結果となった。

生徒 A 24 点

生徒 B 31 点

生徒 C 26 点

生徒 D 24 点

(3) 2016 年の生徒のコメントから

今回の患者と生徒のアンケート調査のように 2016 年にも調査を行っている。
点数は、2016 年ものは 5 点満点で調査しているため、数字の比較はできないと考えコメントだけを比較してみた。

生徒 E.

(生徒コメント：5 月)

- ・テスト法を覚えたり、的確に取穴し、鍼を打ち込めるようになりたい。
- ・脈診など東洋医学的診察法やあん摩の力度の調整ができるようになりたい。
- ・しゃべりすぎないように注意したい。
- ・肺気胸の恐れのある背部などの鍼施術が心配である。
- ・施術の残り時間を気にしながら行っているの、音声時計や見やすい時計を見やすい場所に置いてほしい。

(6 月)

- ・適切なテスト法、取穴、効果をあげられるようにしたい。
- ・治療法 + α の施術を身に付けたい。

生徒 F.

(生徒コメント：5 月)

- ・経穴の部位を正確に覚える。
- ・ストレッチングや治療体操のような患者さんに参加してもらいながら行える手技を身につけたい。
- ・主訴を意識しすぎて他の症状を見落とすことがあるので、もっといろいろな角度から患者さんを診られるようになりたい。

(6 月)

- ・患者さんにとって最適な力度で施術できていないので、そこを改善したい。鍼の技術を向上させたい。
- ・継続患者の方にしっかりと治療効果を出せるか、自分に問診ができるのか心配である。
- ・毎日続く臨床実習の中で治療することの面白さと難しさを感じています。

4 まとめ

生徒 4 名に対し延べ 33 名の患者から回答を頂いた。患者さんからの感想として、生徒への感想以外に施術回数を増やしてほしい等、2016 年の調査と同様の結果が得られた。生徒によっては、施術部位や主訴の改善度で低い点数になっているものもあった。また、患者の評価に対し、生徒の自己評価がかなり低いものもあった。今年度の生徒は、女性だけであったので、力度が足りないという評価が考えられたが、一人の患者から男性にも施術してもらいたいという感想があっただけであった。また、2016 年のアンケート調査との比較では、生徒のコメントとして、鍼の技術や検査法、東洋医学的な見方等、具体的な文章表現であったのに対し、現在の生徒は、自分が目指す施術のあり方がはっきりしていないのではと感じる。教員が教える技術や治療の考

え方は、それほど変化しているとは思えないが、生徒の多様性・個別性がこのような変化になったのではないかと考えられる。

患者のコメントでは、施術そのものに対する意見は少ないが、腰をもっとやってほしかったとか、症状がある部位をもっと施術してほしい、施術部位ははじめの点から終点までしっかり施術してほしいという辛口コメントもあった。これは、常連の数名の患者からのものであるが、このような患者が本来は生徒の技術を向上させるのではないかと思う。生徒をしっかり評価し向上させていくのは、このような患者を大事にし、それを教員が見極めることも大事なのではと感じた。このアンケート調査を通して、生徒の個別性や多様性、2016年の生徒との比較で、その違いも実感することができた。引き続き、生徒の多様性や個別性を適切に判断しながら、現代社会に対応できるあはき師を育てていきたいと思う。

＜資料1＞

●患者アンケート調査票

- 1 本日一番つらい症状はなんですか？その部位を書いてください。
- 2 生徒の対応や施術について、以下の項目についてお答えください。

4：とてもよかった

3：よかった

2：あまりよくなかった

1：全くできていなかった

■4つのどれかに○を付けて下さい。

(1) 挨拶やベッドへの適切な誘導 (4・3・2・1)

(2) あなたの訴えに対する誠実な対応 (4・3・2・1)

(3) 症状に対する的確な部位への施術 (4・3・2・1)

(4) 施術時の適切な力加減 (4・3・2・1)

(5) 施術による症状の軽減 (4・3・2・1)

- 3 施術した生徒に対して望むことはありますか？ご自由にお書きください。

- 4 その他

臨床実習について何かご意見がありましたらご自由にお書きください。

＜資料2＞

●臨床実習についてのアンケート（生徒）

4月から臨床室が始まり、これからおよそ1年を通して患者さんを施術し、多くのことを学んでいくことになります。そこで、この時点でみなさんが臨床について思うこと、感じていることを教えてください。

- 1 あなたが今日行った患者さんの治療について伺います。

4：非常によくできている

3：できている

2：あまりできていない

1：全くできていない

■4つのどれかに○を付けて下さい。

(1) 挨拶やベッドへの適切な誘導 (4・3・2・1)

(2) 患者さんの症状に対する誠実な対応 (4・3・2・1)

(3) 症状に対して施術部位を的確にとらえる (4・3・2・1)

(4) 施術時の適切な力加減 (4・3・2・1)

(5) 患者さんの症状の軽減 (4・3・2・1)

- 2 あなたの施術で課題だと思うこと、あるいは、学ばなければならないと思うことがありましたら書いてください。

- 3 今後、臨床実習で、何か心配なことはありますか？

- 4 現在までの臨床実習の感想をどんなことでもいいので書いてください。

<資料3>**■自尊感情 アンケート****●1. 私はすべての点で自分に満足している**

強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●2. 時々、自分はまったくダメだと思うことがある。

強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●3. 私には、けっこう長所があると感じている。

強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●4. 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる。

強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●5. 私はあまり得意に思うところがない

強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●6. 時々、自分は役に立たないと感じることがある。

強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●7. 自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じる。

強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●8. 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う。

強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●9. よく、私は落ちこぼれたと思ってしまう。

強くそう思う	そう思う	そう思わない	強くそう思わない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●10. 私は、自分のことを前向きに考えている。

強くそう思う

☐

そう思う

☐

そう思わない

☐

強くそう思わない

☐

【指標・尺度の使い方】

「強くそう思う」・・・・・・4点

「そう思う」・・・・・・3点

「そう思わない」・・・・・・2点

「強くそう思わない」・・・・1点

質問項目 2、5、6、8、9 については、

「強くそう思う」・・・・・・1点

「そう思う」・・・・・・2点

「そう思わない」・・・・・・3点

「強くそう思わない」・・・・4点